

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞
TOSHIKO『MY』のきょうこ『キョウコ』取材紹介施設

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人 福音の園・埼玉事務局
☎049・230・1111(Fax230・1112)

ご家族の声

心あたたまる優しいご支援に感謝

平成十五年二月、息子が突然倒れたとの電話で片道二時間も掛かる病院に駆けつけた。担当医から、病名は細菌性髄膜炎で生命の危険な状態ですと告げられ、その日から家と病院を往復する壮絶な毎日が続いた。担当医のもとで熱心なスタッフの方々の看護のお蔭で奇跡的に意識が戻り、その後立ち上がり、言葉も少しずつ出るようになり水頭症の手術後、リハビリ専門の病院へ移り、脳と体の懸命なリハビリを経てやっと福音の園に入居させて頂けることになりました。

畑に囲まれた静かな所で、施設内には何とも言えぬ木のぬくもりを感じる暖かい雰囲気です。安心感があり、当時私は身も心もすっかり疲れ果てておりましたので、私の方が入りたいと思えました。素人の私なりに考えたリハビリメニューを続けさせて頂いたお蔭ですべての面で随分しつかりして参りました。杉澤ホーム長さん初めスタッフの皆さまの、優しい笑顔と思いやりのある愛はいつまでも息子の心に残ることでしよう。本当にありがとうございます。丹羽 昭江(母)

退園者の声

ホームでの三年半生活振り返って

福音の園に入居して、民生委員Yさん夫妻との出会いがありました。週に一度の憩いの場「川越新生バプテスト教会」で、キリスト教のことがもつと知りたくなつて聖書を買って読み始めました。当時私は、人間関係でも悩んでいて、自分の性格が嫌いでもありました。私は聖書を読みながら、ここに書かれていますことを実践したら人間関係が上手くいくかもしれないと思いました。少しずつ出来ることから実践してみました。マタイの福音書五章二二節『兄弟に向つて腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。』とあるように腹を立てずにゆるすこと。マタイの福音書七章一節『人をさばいてはいけません。さばかれないためです。』

徹夜しても平気で働いていた頃は、自分を信じて生きていました。病気で仕事や健康を失つて初めて、何が大切かも一度見つめ直し、振り返ることができるようになりました。そして「本当の希望を見つけることができました。書き切れないたくさんの皆様、ありがとうございます。(丹羽俊夫)

丹羽俊夫さんを送り出して

「卒業」と書初めや七夕短冊に記して

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤卓巳 四年前、開設準備室に「四六才の男性が、リハビリ病院を退院できるまで回復したのに次の受入先が見つからず困っている。『高次脳機能障害』で特定疾病の一つに含まれ、福音の園への入居資格に該当する。前向きに検討していただきたい」旨の入居問い合わせが寄せられた。認知症対応「高齢者」ホ

ームに、果たして「青年」が共同生活できるのか等、たくさん不安を抱えての開園。やがて退院先から直行、二〇〇四年十二月入居された。

外食店の店長で働き盛りだったが突然の病気で倒れた。記憶喪失、半身麻痺に襲われたが懸命のリハビリで日常生活ができるまでに回復。社会復帰を目指し、当園でもリハビリメニューをこなした。毎食後、献立をメモしたり、新聞社説やコラム欄をノートに転記し、午後のお茶の時間にはコラム欄を朗読。みんなで耳を傾け、終わると拍手が起こる。「とつとつ」から流暢に回復されたことへの拍手である。

新年の書初めや七夕の短冊に「卒業」と記して、決意申し出られ、また入居時の「要介護3」が「1」まで回復したことなどから、本人・市障害者福祉課・市社会福祉協議会・障害者生活支援センター・地域生活支援センター・県総合リハビリテーションセンター等から担当者が集まり「支援検討会」が開かれた。はじめに「障害者移動支援サービス」を利用し、自立に向けた外出プログラムが組まれた。また、市内外の施設等を見学、体験宿泊もされた。さらに福祉作業所へ体験実習外出されたりと、十一回の支援検討会を重ねた結果、最終となる「第十二回支援検討会」で受け入れ転居先への引越し日時が確定した。そして、夢だった「卒業」が現実となった。さて、私たちは「本人と三年以上にわたる共同生活を通して、他では得ることのできない「支援」のあり方をスタッフ全員が体得できました。何よりも福音の園・川越「介護力」の礎となりました。丹羽俊夫さん、「ご卒業」おめでとうございます。

御礼

鮮魚・筍・他 藤田 貞雄様(千葉県鴨川市)
菖蒲(菖蒲湯用) 萱沼寿会様(川越市萱沼)